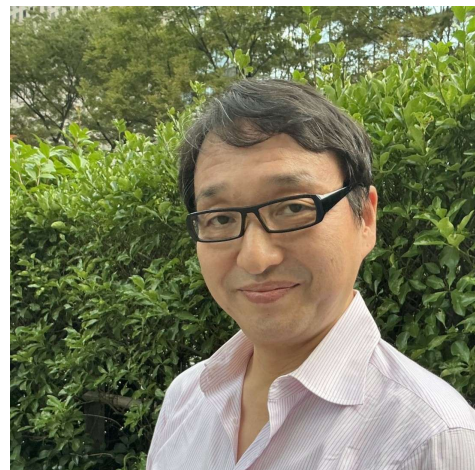


自分へのアドバイス

演出家、アクティングコーチ

まつ お じゅん
松尾 淳氏（高校32期）

1980年 一橋大学社会学部入学
1984年 (株)テレビ東京入社 編成局映画部 → 演出一部
1987年 花組芝居に参加
2000年 ベレジヴァーニエ・アート・シアターに参加
2005年以降、俳優、演出家、芸能事務所アクティングコーチ等
現在 日本演出者協会国際部、シェーン英会話講師



■社会人

立高ではおそらく変わり種の俳優という職業を選びました。先輩・後輩に俳優がまったくいないというわけではないですが、「日本人なら誰でも知っている」知名度の方はおそらくいないと思います。立高卒業生には博士も大臣も文学者もミュージシャンもいるのに俳優がいない... なぜでしょうか？

■大学時代

「プロの俳優になろう」と決意したのは大学3年のときです。立高英語部の先輩に誘われて入ったインターカレッジのシェイクスピア劇団で、ぼくは同学年の友人ができました。有名俳優の2世で、すでに俳優を職業にすることが既定路線になっている男です。彼から「お前の才能でプロにならないのはおかしい」というようなことを言われました。ぼくは学生時代から演劇雑誌に写真が出たりしていたし、女性ファンもありました。プロの演技を見ても自分のほうが上手いと感じたし、彼の言う通りだなと思い、大学4年でプロ劇団の研究生になりました。

■立高時代

民音(今の軽音のようなクラブ)でバンドを4つ掛け持ちし、英語部で英語劇をがんばっていました。三年生でも有志演劇に誘われて演コンで上演しました。いま振り返って、ほんとうに立高が良い環境、良い友人、良いチャンスをふんだんに与えてくれたことが、大学時代にぼくが学生演劇ではそこそこ成功する基盤となったと思います。

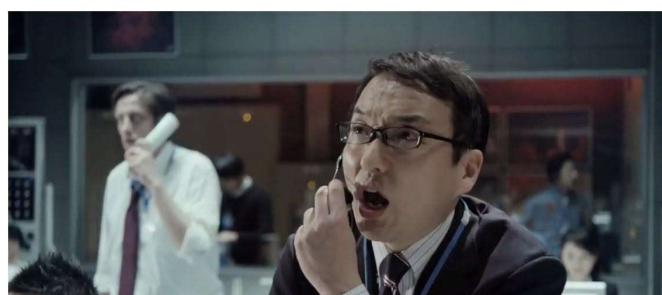
しかし、将来まさか俳優を仕事にするとは立高のときは想像もせず、高校時代にプロの舞台を見に行ったことはありません。実は、都内に住む同年代の高校生たちは高校時代からプロの舞台をバリバリ見て、決意をする者はもう決意していたのです..... 立高に俳優あるいは芸能人の卒業生が少ないのは、都内に多い劇場やテレビ局から立川が遠いという地理的な原因もあるかもしれないと思っています。



民音コンサート



三年有志劇の稽古



俳優の仕事

■立高生の皆さん

科学者や政治家や経営者や作家になりたい方は、がんばってご自身の道を進んでください。ロールモデルになってくれる先輩もきっとたくさんいると思います。私は、演劇や芸能の仕事に興味のある方に向かってアドバイスしたいと思います。立高生活は楽しいでしょう？そして皆さんのご家庭のほとんどがそこそこ裕福、少なくとも生活には困っていない方が多いのではないのでしょうか。→つまり、ハングリーさが無いのです。そして先述したようにナマの演劇に触れたり、日常的に生身の芸能人を目にする生活もしていない。ちょっと普通でない、山あり谷ありだけど、刺激的な人生を送りたいと思うなら、そのことを考えてみてください。

これは、もし私がタイムトラベルできて、高校時代の自分に会うことができれば、自分にしてやりたいアドバイスです。